



読字 原田 鏡

No. 682

2012/10/15

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒113-0033 東京都文京区
春日1-1-1807201室

日中友好協会
岡山支部
〒713-8256
岡山市東区3-8-30 514
TEL:086(272)-3010
郵便番号1100
01250-0-3835

日中友好協会
倉敷支部
〒713-8911
倉敷市連島中央1-8-4
(宮地方)
TEL/FAX:086(446)-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rizhong.biz/>
メールアドレス
rizhong86@hotmail.co.jp

日中国交回復40周年で文化講演会

「岡崎嘉平太の生涯」に80人が聴講

日中友好協会倉敷支部

日中国交回復40周年の9月29日、日中友好協会倉敷支部は日中国交回復に尽力した岡崎嘉平太の生涯」と題する文化講演会を倉敷市立美術館で開きました。

題で日中関係は、緊迫していましたが、40年前の日中国交回復時の知恵と運動に立ち返り、紛争の平和的解決を」と訴えました。

講師の岡崎嘉平太記念館元館長の河田啓子さん(岡山県郷土文化財団理事)は、1時間30分にわたり講演され、日中国交正常化に努力した岡崎嘉平太の足跡をたどり、周恩来元首相が 水を飲むときは、井戸を掘った人のことは忘れてはならない」という諺にたとえ岡崎さんらを、井戸を掘った人」とたたえたエピソードを紹介。

からもこのような文化講演会を続けてほしい」と時宜を得た講演会だ」などの声とともに、倉敷市文化連盟会長の室山貴義氏が きょうの講演に感銘を受けた、これからも頑張つてほ

しい」と、会場を激励されました。最後に大本芳子副理事長が閉会挨拶をし、講師と参加者に感謝するとともに、会場の皆さんに日中友好運動への参加を呼びかけ同協会への加入や、カレンダー購入のお願いをしました。なお当日会場では、11,800円のカンパが寄せられました。(大本芳子通信員)

第10回 東日本大震災募金を送りました

日中岡山支部の太極拳講習会にどう、有志の方々による震災カンパが、9月27日に第10回となりました。

今回は15,570円でした。去年4月6日から始まった金額の合計は176,548円に達しました。ありがとうございます。

このカンパは、日中友好協会本部をとおして、東北3県の友好協会組織にとどけられています。

す。震災の復興は、なかなかすすまず、国家予算のうち、八ツ場ダム、不急不要の新幹線、首都の環状道路などに使われようとしています。福島県から岡山県に250人もの人たちが避難されてきています。その人たちの声を聞いてください。原発ゼロにむかって、毎週金曜日に中国電力をとりかこんでいます。 竹内和

講演会には折からの台風の接近という状況下にも関わらず大勢の方々が参加されました。

司会は着物姿の秋山啓子さん。来賓として倉敷市国際課課長佐藤雅彦さんが挨拶、開会挨拶は支部理事長の栗本泰治さんで栗本さんは、尖閣問



また、国交回復にあたって右翼勢力が、岡崎氏らを妨害した事実やそれにひるまず頑張った岡崎氏らの行動を画像で生々しく報告し感銘を与えました。そのあと質疑応答があり、5人の方が発言されこれ

日中国交回復40周年記念のつどい

新中国草創期の映画

「白毛女」の感想

9月29日(土)午前、高島公民館で「日中国交回復40周年記念」企画として日中岡山支部主催による映画「白毛女」の上映会がありました。日中岡山支部の宇野支部長の司会で開会、竹内理事長のあいさつ、小林事務局長の報告がありました。40人の参加。

1950年制作の中国映画「白毛女」は、協会によって修復作業、デジタルリマスターされたものです。1930年代の農

村、地主にしばらくとられる農民たちの悲惨な暮らし。その中で結婚式をひかえた大春と喜児の若々しさがまぶしい。

しかし地主に見せられた喜児は連れ去られます。その屋敷から逃げて深い山の中にかくれ生きのびますが、苦労のために黒髪がすっかり白毛になってしまします。

日中戦争開始のころの、日本軍の空爆も出てきます。新しい社会への息吹のなか、

八路軍に入っていた大春と、白毛仙女の伝説になっていた喜児は再会します。

協会の紹介文にあるように「痛みと怒りと喜びを描いて、古い中国からの解放宣言の映画となった」記念の作品です。

上映後、中国からの帰国者を含む参加者全員ひとこと発言をしました。若い頃、みたことがある(それでもほとんど忘れていた)方々の改めての感慨。はじめてみた方々からは農村の苦しみは日本も同じだった。日本軍の悪業がもつと出てくるのかと気になってきたが……歌がたたくさん歌われてよかった。はげしいつるし上げというやり方が、その後もい



ろろ影響を与えているのでは。など。

小林事務局長の閉会あいさつで12時すぎに散会しました。坪井あき子

第六回中国帰国者との交流会 福祉交流プラザさいでんで開催

はじめに

9月22日(土)、福祉交流プラザさいでんで、六回目の中国帰国者との交流会が約40人の参加で開催されました。

尖閣諸島(中国名・釣魚島)の領有をめぐる、日中関係が悪化するなかで開かれました。さいでん運営協議会の岡正義会長は「現在は大変な日中関係になっている。それだけにこうした交流ができていくことは、大切にしていきたい。」と開会のあいさつをなさいました。続いて館長も、中国帰国者が多数住んでいる地域で、こう

した交流が地道に続いて日中間の理解を拡げることの重要性を話されました。

中国と日本の伝統文化を堪能

会は例年とおなじく馬小菲さんの通訳・司会で進められました。馬英飛さんの中国民族楽器葫芦絲(フルース)、高杉さんの二胡、益田さんのハーモニカの演奏及び後藤さんの歌に聞き入りました。

プラザさいでんの講座生からは、詩吟、扇舞や日本民謡が披露されました。日中両国の伝統文化を堪能しました。

茶道同好会のみなさんのおいしいお抹茶をいただきながら日中友好のひとときを過ごしました。

次に、林潤さんと、初めて会に参加した芳田日本語教室で学ぶ女性、陳夏さんの感想文を紹介します。

小林軍治



林潤さんの感想

開会挨拶では、運営協議会会長の岡正義さんも館長の中桐尚之さんも理解し合うことの大切さをお話しされました。

交流会では馬英飛さんの中国民族楽器フルースの演奏に始まり、さいでん吟詩会のみなさんの詩吟と扇舞、益田俊幸さんのハーモニカ演奏、後藤宏さんの歌、さいでん民謡の会の民謡と高杉久治さんの二胡演奏を楽しみました。

交流の時間には、さいでん茶道講座生の皆さんが点ててくださったお茶をいただきながら、馬小菲さんの司会でゲームをしました。

ゲームは言葉で説明された絵を描くものでした。同じ説明を聞いても人によって違った絵が描かれることで、言葉で伝えることの難しさを実感できるゲーム

ムでした。

尖閣諸島の問題で日中両国間の緊張が高まっている時に留学生を含めて中国に関係するところで交流するよい機会になりました。



陳夏さんの感想

9月22日朝に、私と主人は小林先生の車に乗って、中国帰国者の交流会に行き参加しました。

帰国者の交流会なので、60歳以上の年上の人がいっぱいでした。みなさんはとても元気そうに見えました。司会は日本語が上手な中国人の馬さんでした。馬さんの日本語は日本人と同じくらい上手です。本当に羨ましくて、彼女の日本語みたいに上手になりたいです。出演者は中国帰国者と日本

人です。そして内容が豊かでした。中国人のフルースや二胡、歌などは皆さんに好きになつてもらいました。それに、日本の扇子舞踊は日本の伝統芸術文化で、演目をみながら日本のお菓子を食べ、お茶を飲んでとても楽しかったです。

実は、帰国者の生活が楽しくなるために、交流会は毎年あるそうです。彼たちは日本語が難しいと思つたにもかかわらず、まじめに勉強しています。帰国者の方々が日本で晩年を楽しむことを願っています。

西安旅行

第二章

③

谷川浩文

西安滞在3日目



に出会った。あまりにも可愛いので皆、一緒に記念撮影をしようと一列に並んだ。まるでサイン会である。玄奘三蔵法師や空海、阿倍仲麻呂のゆかりの寺を訪ねる。空海のゆかりの寺を訪ねて、0番札所の判を記念に押しもらったが、88か所巡りをする方には、是非お譲りしたのでご連絡を。

朝9時にホテルを出発する。バスの運転手の運転技術はかなりのもの。え??そこで切り返す??と思わず言いそうになりそうだが、他の車の交通なんてお構いなし。中国では遠慮や躊躇いは即事故につながる。狭い道路で切り返し、Uターンに成功した時、車内では大喝采が起き、バスが転回するのを待つてくれた他のバスに向かって我々が敬礼すると、そのバスの運転手は大爆笑していた。シルクロードの起点に着いた。涼しい風を受け、この道がローマに通じる道なのかと感慨もひとしお。シルクロードの途中、

タクラマカン砂漠でかなりの人が飢餓で命を落としたり。往復20年かけて長安に帰ってきたものは裕福な生活が出来たらしいが、それにしても昔の人のバイタリティーや冒険心には敬服する。ここで回族と思われる幼児

次回の新聞発送作業は10月22(月)午後1時半、民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

葉林 和 稲小 竹内 竹内 坪井